

コミュニケーションで継続的な帯活動が中学生の 英語学習への動機づけに与える効果

橋本 慎一

(川崎市立富士見中学校)

1. 研究の目的

コミュニケーションで継続的な帯活動が中学生の英語学習への動機づけにどのような効果を与えるのか。

2. 動機づけ

自己決定理論(Self-Determination Theory) (Deci & Ryan, 2002)を用いて生徒の動機づけの変化を捉える。自己決定理論では、動機づけは、内発的動機づけと外発的動機づけの2項対立ではなく、図1に見られるように、リニアに変化する学習者の動機づけを自己決定性の度合いによって1次元の連続体上に配置して捉える。

動機づけのタイプ	無動機		外発的動機づけ		内発的動機づけ
	非調整	調整	外的調整	取り入れ的 調整	同一視的 調整
調整のタイプ					
行動の質	非自己決定的			自己決定的	

図1：連続体としての動機づけと自己決定性

3. One Minute Chat

One Minute Chat (2年生) No. 2		Japanese				LI					
English		Japanese				LI					
1	Hello! You look tired. Are you OK?										
2	I'm fine. Thank you.										
3	What did you do last Sunday?										
4	I went to <i>gyaku</i> and studied math.										
5	What time did <i>gyaku</i> start?										
6	At eight thirty in the morning.										
7	So early! Were you sleepy?										
8	No. I wasn't. In the afternoon, I watched a movie.										
9	What movie did you watch?										
10	I watched "Detective Conan".										
11	Oh, me too. I was very excited.										
12	It was a wonderful movie.										

Class No. _____ Name _____

与えられたテーマに関して、自分の意見を交えながら、1分間会話を続けることができる。 Day1 Day2 Day3 Day4

1) ワークシートを写しながら読む。自分の意見を交えながら、1分間会話を続けることができる。
 2) ワークシートを写しながら読む。自分の意見を交えながら、1分間会話を続けることができる。
 3) 話題を変えながらであれば、ワークシートを見なくても、1分間会話を続けることができる。
 4) 与えられたテーマに関して、自分の意見を交えながら、1分間会話を続けることができる。

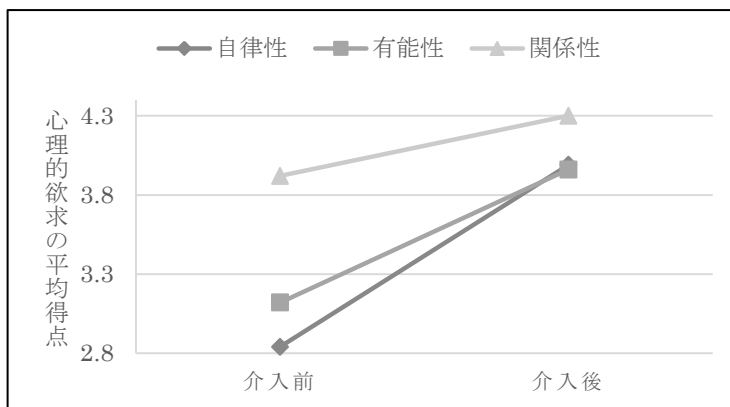
こんにちは、何て言う？	
あいつらをつとせ	聞き取れぬとき
1. それはいいね。	1. えっ、なんて？
2. それは面白いね。	2. ちょっと待って。
3. それは楽しそうだね。	3. もう一度言ってもらえますか？
4. それは残念だったね。	4. もっとゆっくり話してください。
5. すっぴん！	5. 聞き取りが難しいです。
6. なるほどね。	6. 〇〇って何ですか？
7. 私もそう思う。	7. 〇〇は英語で何と言いますか？
8. 私はそう思わない。	8. それはどうやって書くの？
9. すみません、分かりません。	
10. もっと教えて！	
どのくらい正しいか	その他の質問
1. 全くその通り！	1. 本当に？
2. その通りです。	2. どうしたの？
3. ほぼ、そうだね。	3. 大丈夫？
4. 多分ね。	4. 大丈夫？
5. ちひさしいらね。	5. 何で？
6. ひよこしたらね。	6. 何で？

4. 調査

調査対象は公立中学校に通う第2学年生徒88名（男42名、女46名）である。調査は2016年5月から2017年1月（長期休業期間を除く）まで約6か月間に渡って行われた。質問紙は廣森(2006)で使用された「英語学習における心理的欲求支援尺度」および「英語学習における動機づけ尺度」を用い、6か月間に渡るOne Minute Chatによる教育的授業介入を行い、介入前(2016.5 上旬)と介入後(2017.1 上旬)の2回のアンケートによる質問紙調査を実施し分析した。

5. 3つの心理的欲求の変化

- (1)自律性(autonomy)の欲求：自身の行動がより自己決定的であり，責任感を持ちたいという欲求
- (2)有能性(competence)の欲求：行動をやり遂げる自信や自己の能力を示す機会を持ちたいという欲求
- (3)関係性(relatedness)の欲求：周りの人や社会と密接な関係を持ち，他者と有効な連帯感を持ちたいという欲求



3つの心理的欲求得点の介入前後の変化

6. クラスタ分析後の心理的欲求と動機づけの変化

次の表は介入の前(2016.5 月上旬)に行った、「コミュニケーション活動動機づけ尺度」を使用し，授業介入を行った生徒（88名）のクラスタ分析（ward法）を行った後，4つのクラスタごとに心理的欲求と動機づけの変化をまとめたものである。

各動機づけタイプの授業介入前後の心理的欲求と動機づけの変化

動機づけタイプ	3つの心理的欲求支援の変化			動機づけの変化				
	自律性	有能性	関係性	内発的	同一視的	取り入れ的	外的	無動機
「高動機づけ」群	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎
「中動機づけ」群	◎	◎	◎	◎	—	◎	◎	◎
「外発的動機づけ」群	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	△
「低動機づけ」群	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△

(注)◎は有意な上昇 △は有意な低下 —は有意な変化なし

7. まとめ

One Minute Chat による授業介入は，3つの心理的欲求のすべてを充足し，動機づけを高めることが確認された。授業で学んだ会話をベースとして自由会話を繰り返し行うことにより，生徒の自立性を喚起し，活動の中で達成度を記録したり，クラスの前で発表することで有能感を持たせ，コミュニケーションを目的としたペアによる会話活動を通して関係性を育んだ結果，3つの心理的欲求を満たし，生徒の動機づけを高めることができた。各動機づけ群においても，その効果がそれぞれの動機づけ群の特性に応じて確認された。コミュニケーションで継続的なタスククリプションが生徒の動機づけを高めることが確認された。短時間で取り組むことができる One Minute Chat はアクティブラーニングやモジュール授業などにも取り入れやすい活動であると考えられる。

参考文献

- Deci, E., & Ryan, R. (2002). *Handbook of self-determination research*. Rochester, NY: University of Rochester Press.
- 廣森友人 (2006). 『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』 東京: 多賀出版.
- 橋本慎一 (2016). 「スピーキング活動に必要な練習とは」『英語教育』 65(6), 18-19.